

# 大学院ニュースレター

## 久留米大学大学院医学研究科

第72号/2014年9月16日発行

編集/医学研究科長

### 『運動療法からストレスマネジメントへ』

健康・スポーツ科学センター  
教授 豊増 功次

私は1978年(昭和53年)に本学を卒業し、当時の第3内科(現心臓血管内科)に入局しました。そして入局後5年目の秋に研究室(運動負荷研究班)に入り、本格的な研究生活を始めました。研究室では心疾患患者に対する運動負荷時の循環応答に関する研究や心臓リハビリテーションに関する研究がメインでした。心臓・血管系に病気を有する患者さんに運動負荷試験を行って運動中の自覚・他覚症状のほか心拍数・血圧や心電図変化を観察し、運動耐容能の評価、病気(主に虚血心疾患)の診断や重症度の決定、治療効果ひいては予後の判定などに関する研究を行いました。また心臓リハビリテーションに関する研究では、今では当たり前となっていますが、心筋梗塞患者さんに対する社会復帰を目指したリハビリテーションプログラムの開発にも携わりました。この頃は負荷研究会(年2回)や心臓リハビリテーション研究会(年1回)が開催され、「必ず発表」が研究班のノルマだったのでデータの収集や分析・発表にかなりのプレッシャーを感じていました。研究が進むにつれ次第に研究の対象は、病気の患者さんだけでなく、病気を発症する前のリスク保有者(高血圧や脂質異常、糖尿病の人など)から健康づくりを目的とした健康人まで広がり、やがて循環器病学から予防医学の研究も行うようになりました。

さらには学生の頃からスポーツが好きであったことからスポーツ医学に関する研究にも足を突っ込むようになり、日本体育協会の公認スポーツドクターや日本医師会の健康スポーツ医の資格も取りました。その後、平成4年に部署が第3内科から保健体育センター(現健康・スポーツ科学センター)へ移りました。そこでは本学の教職員や学生・生徒の健康管理(保健管理)に関する業務および学外者(地域住民)に対する健康づくりに関する業務を行うようになり研究の内容も変わってきました。

この頃は、地域の自治体が主催する肥満教室や健康づくり教室(講座)の事業依頼をよく受けるようになりました。参加者に対する運動(療法)を中心とした介入指導を行うことで参加者が運動を実践し、それなりの効果(研究成果)も挙げられ参加者にも満足してもらえました。しかし教室や講座に参加される方の多くが日々の生活で家族の看護や介護疲れあるいは人間関係などからくるストレスを受けられているのを、個人指導を行う中で感じるようになりました。運動により身体活動はアップしますがメンタルヘルスに対するケアも別に必要ではないかと思うようになりました。また大学では立場上、労働者の健康づくりや病気の予防など産業医学の勉強を始めるようになり、定期健康診断時の問診や内科診察中

あるいは健康相談での面談の際に、精神的に不健康と考えられる教職員が少なからずいることがわかりました。いかにストレスを軽減するか、ストレスに対する研究が不可欠であると考え、今までやったこともない労働者のストレスマネジメントに関する研究に取り掛かりました。ちょうどその頃、産業ストレス研究会（後の日本産業ストレス学会）が発足し、すぐ入会しました。日本産業衛生学会期間中に開催される少人数による研究集会にも参加しました。ストレス研究の難しさは、ストレスは有るのか、無いのか、強いのか、弱いのかといった、ストレスの評価が正確（適切）にできるか否かです。測るものさし（尺度）・指標が必要となります。指標には主観的指標と客観的指標の2つがありますが、主観的指標である質問紙尺度は信頼性と妥当性が要求されます。当時の労働省の研究班が日本人労働者に対して開発・作成した職業性ストレス簡易調査票は、信頼性と妥当性が証明され、種々の職種の人にも適用（応用）可能な質問紙尺度でした。この調査票を使用できたこともストレス研究を進めていく上で

幸運でした。現在、その指標に他の客観的指標を組み合わせた形で横断的だけでなく介入による方法で看護師や医師・研修医などの医療従事者のストレスマネジメントに関する研究を行っています。50歳近くから、「見よう見まね」で始めた研究は、科研費の獲得もでき、その成果もある程度は社会に還元できたかなと思っています。

「何でだろう？」という疑問を持ち、その疑問を明らかにしようと考え、行動すれば、おのずと何の研究でも出来るようになります。

若手研究者には、文献をたくさん集めて読むことも大切ですが、研究会や学会に積極的に参加し、同じ若手の研究者同士によるホットな discussion にどんどん加わって欲しい。そこから自分の研究のヒントが得られると思います。



## 事務通信

### ◆修士・博士課程の皆様へ◆

#### **研究題目及び学位論文提出予定の確認調査実施について**

修士課程第2学年、博士課程第4学年学生の皆様を対象に、研究題目及び学位論文提出予定の確認調査を実施しております。調査書類に必要事項を記入の上、10月7日（火）までに、必ず医学部事務部教務課まで御返送下さい。

併せて学位論文の申請・審査手続通知についてもご確認ください。

（学位論文のお問い合わせ先：医学部事務部庶務課担当：中村 内線 3014）

### 平成26年度大学院医学研究科特別講義カリキュラム

#### 後期日程のお知らせ

担当講座	講義日時	会場	講演者	講義テーマ
小児科学	10月10日 (金) 15:00～ 16:30	教育1号館 5階 1501教育	田中 雅嗣 先生 (東京都健康長 寿医療セ ンター研究所・部長)	サピオキス：高齢期疾患・長 寿・運動能力に関連する 全エクソン領域遺伝子 多型解析

看護学科	10月28日 (火) 13:00～ 16:10	医学部 看護学科A棟 4階講義室5	戈木クレイグヒル 滋子 先生 (慶応義塾大学看護医療学部/ 健康マネジメント研究科・教授)	質的研究法 — グラウンデッド・セラー・アプ ローチを中心に —
内科学 (心臓・血管内科部門)	12月18日 (木) 16:30～ 18:00	教育1号館 5階 1501教室	五十嵐 淳介 先生 (香川大学医学部自律機能 生理学講座・准教授)	血管新生と内皮細胞の 受容体シグナル
先端癌治療研究センター (肝癌部門)	12月18日 (木) 18:15～ 19:45	基礎1号館 2階会議室	平尾 敦 先生 (金沢大学がん進展制御経済 書がん幹細胞研究プログラム 遺伝子・染色体構築研究分野)	栄養センサーシグナル 調節によるがんの生存 戦略とその克服
外科学	未定	未定	田中 紘一 先生 (公益財団法人 神戸国際 医療交流財団・副理事長)	未定

日時・場所等に変更がある場合には、大学院医学研究科ホームページでお知らせします。また、5回以上のセミナー出席およびレポート提出により単位認定を行っております。当該科目履修登録者は各セミナー出席の上、1週間以内に医学部事務部教務課までレポートをご提出下さい。

その他、多数のご参加をお待ちしております。

### ◆博士課程の皆様へ◆

## 平成26年度博士課程共通科目後期講義計画 及びレポート提出について



共通科目を履修された方には既に通知しておりますが、今一度講義計画及びレポートの提出期限についてご確認の上、所定の期日までにご提出ください。なお、講義の変更等ある場合には、大学院ホームページ学生掲示板にてお知らせしますので、そちらもご覧いただくよう併せてお願い致します。

### ●講義計画（後期日程）＆レポート提出

実施時期	科目名	科目担当責任者	場 所	講義日程/レポート
後期	臨床研究主任 研究者養成 ユニット	山田 亮教授 (先端癌治療 研究センター)	教育1号館 1501教室/ 総合診療棟 4階・共同 カンファレンス室	時 間 割：水曜6限 18:00～19:30 講義日程：9月17.24山田 10月1神田、8荒谷、15.22.29大内田 11月5柳川、12古賀、19上野 12月3桑野、10田中 レポート：第1回講義時に指示有
後期	臨床・基礎研究 と生命倫理 (コンサルテ ーション)	堀 大蔵 教授 (産婦人科学)	教育1号館 1501教室	時 間 割：木曜6限 18:00～19:30 講義日程：10月30日 稲葉 レポート：課題4題 別途指示書有 石原教授：11/28(金)17時締切 教務課窓口へ提出 稲葉教授：11/28(金)17時締切 教務課窓口へ提出 堀 教授：11/28(金)17時締切 教務課窓口へ提出 福重教授：12/26(金)10時締切 緩和ケアセンター福重教授 へ提出
秋期 集中	研究者養成 リテラシー	桑野剛一教授 (基礎感染医学)	教育1号館 1414教室	時 間 割：秋期集中 木曜 16:00～17:30 日 程：10月28.29 /11月11.12 田尻 11月25.26.27.28 Gary Wyckoff

後期	知的財産権論	井上 薫 教授	教育1号館 1501教室 他	時間割：月曜5限 16:00～17:30 日程：9月22.29 /10月6.20.27 11月10.17 /12月1.18.15.22 /1月5 レポート：講義時に指示有
後期	トランスレー ショナルリサ ーチ実習	山田 亮 教授 (先端癌治療研 究センター)	教育1号館 1501教室	時間割：月曜6.7限 18:00～21:10 日程：9月29 /10月6.20.27 /11月10.17 12月1.8.15.22 /1月19.26 /2月2.9.16 他
後期	科学的根拠に 基づく医療 (EBM)	鳥村拓司 教授		レポート：EBMの功罪について（別途指示書あり） 2月3日（火）17時締切、教務課窓口へ提出

## 平成27年度入学試験 要項決定！！

平成27年度大学院医学研究科入学試験の要項が、下記の通り決定しましたのでお知らせ致します。

### 【試験日程】

修士・博士ともに同一

#### \*前期試験

出願受付期間：平成26年9月16日（火）～平成26年9月26日（金）

試験期日：平成26年10月21日（火）

合格発表：平成26年11月21日（金）午前10時

#### \*後期試験

出願受付期間：平成27年1月19日（火）～平成27年1月30日（金）

試験期日：平成27年2月17日（火）

合格発表：平成27年3月13日（金）午前10時

※他に出願資格審査申請受付期間を設定しているのでご注意ください。

### 【試験内容】

#### \*修士課程

《基礎医学群・社会医学群・分子生命科学群・臨床看護学群》

英語・小論文・面接

《バイオ統計学群》

英語・面接

#### \*博士課程

英語・面接

出願資格審査、出願方法等詳細につきましては、平成27年度各課程募集要項もしくは本学大学院医学研究科ホームページにてご確認ください。科目等履修生も同時募集中です。

そちらも詳細は募集要項、ホームページをご覧ください。

## 編集後記

今月からいよいよ、平成27年度学生募集が本格的にスタートします。来年度より臨床看護学群 小児看護論「小児看護専門看護師教育課程」を開設予定であり、現在 日本看護系大学協議会へ専門看護師教育課程として認可申請しています。これら本学大学院教育をより多くの方々に周知・ご理解いただき、多くの入学希望者に恵まれるよう努めて参りたいと思います。(北)

